『スペイン・ラテンアメリカ民俗展』
記念講演集

荻原　寛

0　はじめに

同民俗展は本学国際文化経済研究所の活動の一環として、1992年10月3日4日の両日、本学学生会館を会場に開催され、多くの学生のみならず広く一般市民の参集を得た。ここに収録したのは、同時に行われた外国人研究者・教育者による記念講演の全文である。講演は四本行われたが、うち一本は原稿を用意しないフリートーキングを講演者が求めたためここに収録されていない。

1　『スペイン・ラテンアメリカ民俗展』開催の経緯

10月12日はコロンブスの一行が西インド諸島のグアナハニ島に到達した日で、毎年この日をスペインでは「イスパニダー（スペイン的同一性）の日」、ラテンアメリカでは「人種の日」と呼んでそれぞれに祝う。1992年はこの記念すべき日から数えてちょうど500周年にあたり、しかもスペインがイベリア半島からイスラム勢力を一掃したのも1492年で500年目にもあたり、それを記念した行事が目白押しに並んだ。その中のひとつがセビリア万博であり、バルセロナ・オリンピックだったのである。こうした欧米での動きを契機に、スペイン語を開講している本学においても、日頃知られることの少ないスペイン文化やラテンアメリカ文化のたとえ一部でも紹介できれば、学生ならびに一般市民に資するところ大であろうということから、『スペイン・ラテンアメリカ民俗展』が企画された。この催しは、本学の位置する長崎県が、安土桃山時代から江戸時代初期にかけてスペイン・ポルトガルと交流を深めていた歴史的事実をふり返れば、なおさら意義深いことであった。

2　『スペイン・ラテンアメリカ民俗展』の内容と背景

両日共に百数十点の民芸品、工芸品、民族衣装、写真、ポスターをはじめ、平戸市から貸与された巨大人形六体が展示され、併せてスペインとラテンアメリカの風物が随時ビデオで上映された。記念講演はボリビア人二名、メキシコ人一名、スペイン人一名の計四人が二名ずつ二日間に分かれて行い、通訳は荻原が担当した。講演後はコロンビア、プエルトリコ、メキシコ、ボリビアなど国別に数組がそれぞれ民族舞踊を披露した。会場ではコロンビア大使館の協力により、コロンビア産のコーヒーが無料サービスされた。こうした、内容の濃い催しが実現できたのも、本学非常勤講師マリーナ・ガルシア・カルデロン女史とその夫君である丹澤明氏の奔走、博多に本拠を置く「カーサ

・ラティノアメリカーナ」代表ローサ・サダカタ女史をはじめとする会員各位の献身的な協力、平戸市役所の理解と協力、スペイン大使館とコロンビア大使館の後援、本学後援会をはじめとする民間機関からの資金援助、さらにはこうした諸々の動きの中で間に立って活躍された方々など、力の結集の賜物であった。

3　講演者紹介

『スペイン人到来以前の祭りと伝統、および現代のメキシコ』を講演したガブリエラ・エルナンデス・ライレス女史は、1964年7月28日メキシコ市に生まれる。メキシコ市立師範学校卒業後、メキシコ市立の小学校で普通学級と特殊学級の両方を担当している。現在は文部省給費留学生として福岡教育大学で数学を専攻している。

『スペインの詩人にして劇作家、フェデリコ・ガルシーア・ロルカ』を講演したパロマ・バロール・ボニージョ博士は、1963年マドリードに生まれる。国立マドリード大学大学院から情報科学博士号を授与される。

『コロンブスのアメリカ大陸到達五百周年祝典をめぐる論争』を講演したマリア・ベラスコ博士は1951年4月27日ボリビアの首都ラパスに生まれる。米国ニュージャージー州ラットガーズ大学大学院から文学博士号を授与される。現在、米国ヴァージニア・ウェスレヤン大学教授としてラテンアメリカ文学の講座を担当している。

『ボリビアの全貌について』を講演したヘンリー・ラミレス氏は1960年4月6日ボリビアのオルーロ市に生まれる。メキシコのモンテレイ市にあるヌエボ・レオン自治大学を卒業後、オルーロ工科大学機械工学部講師として教鞭をとる。現在は文部省給費留学生として九州工業大学で設計生産工学を専攻している。